

PRAEVIDENTIA DAILY (8月11日)

昨日までの世界：空爆でもドル/円は陥落せず

先週金曜は、東京時間に Obama 米大統領がイラクの過激化「イスラム国」に対する空爆開始を発表したことから、地政学リスクが嫌気され米長期債利回りと米株価先物が直近安値を更新、連動性が高いドル/円も 102 円丁度近辺から一時 101.51 円へ下落する局面がみられた。もっとも、その後米長期債利回りや米株価先物が反発したことから、結局ドル/円は 102 円台を回復し、下に往って来いの展開だった。

むしろ動きが大きかったのはカナダドルで、カナダ雇用統計で失業率は予想外に 7.0%へ低下したものの、市場はむしろ雇用者数の伸びが市場予想を大きく下回りほぼゼロ (+200 人) だったことに大きく反応して大きく下落、対米ドルで 1.09 ドル前半から 1.10 ドル丁度手前へ下落、7 月入り後の下落基調が続いたかたちとなった。

また、特段の個別材料はなかったが、ユーロが欧州時間から大きく反発し、対ドルで 1.34 ドル台を回復した。この間、ロシアがウクライナ国境近辺での軍事演習を終了したと発表したが、解決は程遠い中、ユーロの持続的な買い材料になったとは考え難い。他方、ポンドは東京時間から下落が続き、カナダドルと同様に 7 月入り後の調整基調が続いた。英国で景気鈍化や利上げ開始時期後ずれ観測と言った悪材料は特段ない中で、週初に回復を見せていたことから調整が一服したかに見えたが、もう少し時間がかかりそうだ。

豪ドルは、豪住宅ローンの予想比下振れ (前月比+0.3%)、RBA 四半期金融政策声明における成長率・インフレ率の下方修正および中国輸入前年比の予想外のマイナス (-1.6%) を受けてアジア時間は軟化する局面がみられたものの限定的で、むしろ欧州時間入り後は米株価先物の回復と共に反発した。

主要通貨ペアの前営業日比変化率と、連動性が高い金利・株価・商品市況の変化

	変化率	米日2年金利差	米2年金利	日2年金利	米日10年金利差	米10年金利	日10年金利	米株価	日株価	原油WTI	原油Brent
ドル/円	-0.1	+0.01	+0.02	+0.00	+0.00	+0.01	+0.01	+1.2	-3.0	+0.3	-0.4
	変化率	独米2年金利差	独2年金利	米2年金利	独米10年金利差	独10年金利	米10年金利	欧株価	米株価	原油Brent	西伊の対独株価
ユーロ/ドル	+0.3	-0.01	+0.00	+0.02	-0.05	-0.04	+0.01	-0.3	+1.2	-0.4	+0.09
	変化率	英米2年金利差	英2年金利	米2年金利	英米10年金利差	英10年金利	米10年金利	英株価	米株価		
ポンド/ドル	-0.4	-0.04	-0.02	+0.02	-0.04	-0.03	+0.01	-0.5	+1.2		
	変化率	豪米2年金利差	豪2年金利	米2年金利	豪米10年金利差	豪10年金利	米10年金利	米株価	中国株価	CRB	
豪ドル/米ドル	+0.0	-0.11	-0.10	+0.02	-0.10	-0.09	+0.01	+1.2	+0.3	-0.2	
	変化率	NZ-米2年金利差	NZ2年金利	米2年金利	NZ-米10年金利差	NZ10年金利	米10年金利	米株価	中国株価	CRB	
NZドル/米ドル	-0.2	-0.05	-0.03	+0.02	-0.02	-0.01	+0.01	+1.2	+0.3	-0.2	
	変化率	米加2年金利差	米2年金利	加2年金利	米加10年金利差	米10年金利	加10年金利	米株価	原油WTI	CRB	
米ドル/加ドル	+0.4	+0.03	+0.02	-0.01	+0.04	+0.01	-0.03	+1.2	+0.3	-0.2	

(注) 為替相場、株価および商品価格は前営業日比変化率、金利は前営業日比変化幅(%ポイント)。

主要通貨ペアの前週比変化率と、連動性が高い金利・株価・商品市況の変化(先週1週間)

	変化率	米日2年金利差	米2年金利	日2年金利	米日10年金利差	米10年金利	日10年金利	米株価	日株価	原油WTI	原油Brent
ドル/円	-0.6	-0.02	-0.03	-0.01	-0.04	-0.07	-0.03	+0.3	-4.8	-0.2	+0.2
	変化率	独米2年金利差	独2年金利	米2年金利	独米10年金利差	独10年金利	米10年金利	欧株価	米株価	原油Brent	西伊の対独株価
ユーロ/ドル	-0.1	+0.02	-0.01	-0.03	-0.01	-0.08	-0.07	-2.5	+0.3	+0.2	+0.11
	変化率	豪米2年金利差	豪2年金利	米2年金利	豪米10年金利差	豪10年金利	米10年金利	世界株価	米株価	中国株価	CRB
豪ドル/米ドル	-0.4	-0.15	-0.17	-0.03	-0.16	-0.24	-0.07	-0.9	+0.3	+0.4	-0.0
	変化率	NZ-米2年金利差	NZ2年金利	米2年金利	NZ-米10年金利差	NZ10年金利	米10年金利	世界株価	米株価	中国株価	CRB
NZドル/米ドル	-0.6	-0.02	-0.05	-0.03	-0.01	-0.09	-0.07	-0.9	+0.3	+0.4	-0.0
	変化率	英米2年金利差	英2年金利	米2年金利	英米10年金利差	英10年金利	米10年金利	英株価	米株価		
ポンド/ドル	-0.3	+0.02	-0.01	-0.03	-0.02	-0.09	-0.07	-1.7	+0.3		
	変化率	米加2年金利差	米2年金利	加2年金利	米加10年金利差	米10年金利	加10年金利	世界株価	米株価	原油WTI	CRB
米ドル/加ドル	+0.5	-0.02	-0.03	-0.01	-0.02	-0.07	-0.05	-0.9	+0.3	-0.2	-0.0

(注) 為替相場、株価および商品価格は前週比変化率、金利は前週比変化幅(%ポイント)。

きょうの高慢な偏見：買うべきか買わざるべきか、時間の問題だ

きょうの注目通貨：USD/JPY↓、TRY↑

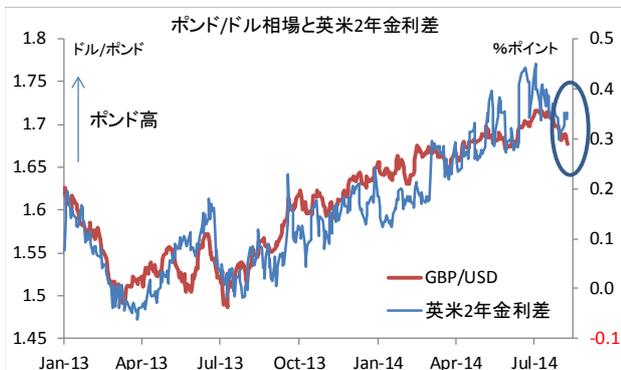
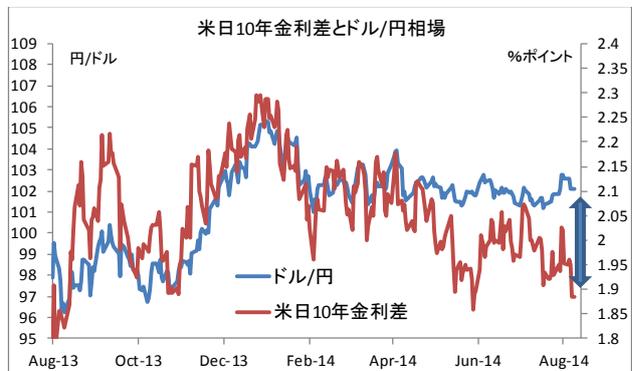
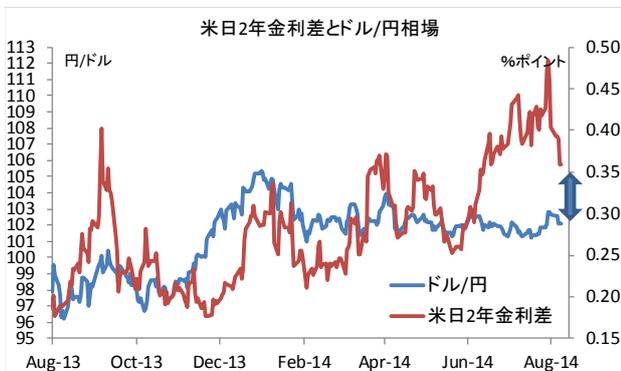
きょうの指標、イベント	時刻	前期	市場予想	備考
Fisher ダラス連銀総裁発言	16:45			タカ派、投票権あり
カナダ7月住宅着工件数・年率	21:30	19.83 万件	19.30 万件	

(出所) プレビデンティア・ストラテジー作成

今週前半は本日を含め非常に材料が少なく、ドル/円は中東やロシア・ウクライナにおける複数の地政学リスクが同時に高まっている中で、どちらかといえば先週金曜の米中長期債利回りや米株価の反発が持続的とならず、8月の季節的な円高傾向もあって再度下値トライとなるリスクが残っている。とは言え、米日金利差との関係でみると(下図を参照)、6月以降の2年金利差の拡大と合わせ上昇できなかったと同時に、5月以降の10年債利回りの縮小でも下落せず、長い目で見るとここ数か月ドル/円は金利差の大きなうねりにほぼ無反応だったと言える。こうした状況が変わりドル/円がレンジを抜けるには、やはり10月FOMCでテーパリングが終了した後、Fedの利上げ開始時期がデータ次第という状況になるまでは難しいかもしれない。

予想外に調整が長引いているポンド/ドルについても金利差(2年)との関係をみると(下図を参照)、英2年債利回りも反落基調ではあるものの足許は米2年債利回りの低下の方が大きくなっていることから、英米金利差は英国に再び有利化方向となっている。地政学リスクの高まりで英米債いずれもセーフヘイブンとして買われる面はあろうが、利上げに向けたスピード感の面では英国が優位であるほか、英利回りはこれ以上下がると6月12日のCarney総裁発言(利上げは市場が予想しているよりも早く起こる可能性)より前の水準に戻ってしまい、さすがに行き過ぎ感が高まる。そろそろ調整一服でポンド押し目買いを狙いたいところだが、今週の英失業率やBoE四半期インフレ報告、あるいは来週のBoE議事要旨など、英国サイドから好材料が出るのを待った方がいいだろう。

10日実施のトルコ大統領選挙では、想定通り Erdogan 現首相が過半数を獲得した模様だ。過去のトルコ地方選、南ア総選挙など新興国での選挙後の為替相場の動きをみると、事前の世論調査通りの結果になるとリスクイベント通過・不透明感の後退から通貨が買われることが多く、今回もトルコリラ買いに繋がる可能性が高い。



ディスクレイマー

当資料は情報提供のみを目的として作成されたものであり、金融商品の売買や投資など何らかの行動を勧誘するものではありません。ご利用に関しては、全てお客様ご自身でご判断下さいますようお願い申し上げます。

当資料は信頼できると思われる情報に基づいて作成されていますが、当社はその正確性を保証するものではありません。内容は予告なしに変更することがありますので、予めご了承下さい。

当資料は著作物であり、著作権法により保護されております。全文または一部を転載する場合は出所を明記して下さい。当資料は購読者向けに送付されたものであり、購読者以外への転送を禁じます。

プレビデンティア・ストラテジー株式会社
金融商品取引業者（投資助言・代理業）関東財務局長（金商）第 2733 号
一般社団法人 日本投資顧問業協会 会員番号 012-02641